

## タカラバイオ株式会社 2011年3月期決算説明会 質疑応答内容

2011年5月16日 野村證券日本橋本社7F 講堂（東京）

回答者 代表取締役社長 仲尾 功一、代表取締役副社長 木村 睦

【11/03 期業績等について】

Q1. 遺伝子工学事業において、宝生物工程（大連）での製造比率が 28.5%（10/03 期 24.5%）と上昇しています。製造コストは 12/03 期も引き続き下がる見込みなのでしょうか。

A1. クロンテック社製品の米国から中国への製造移管は 11/03 期でほぼ終了しました。今後開発した新製品は、宝生物工程（大連）で製造していくこととなりますが、製造コストは現状維持となります。

Q2. 試薬事業に関する震災の影響はどの程度だったのですか？12/03 期への影響はどう見込んでいますか？

A2. 11/03 期は、東北地域への物流が一時期止まり、数千万円の売上減少の影響があったと考えています。現在、東北地域の先生方が実験を開始されつつあると聞いており、思っていたより立ち上がり早いという印象を持っています。研究予算について、被災した施設や装置の整備に一定の予算を消費せざるをえないことなど、試薬の売上が減少すると思われる要因はありますが、東北6県での試薬の売上は国内売上の4%弱であり、影響は大きくないと考えています。

Q3. クロンテック社の次世代シーケンサー用試薬の売上は順調でしょうか？

A3. 販売台数が相当あるイルミナ社の次世代シーケンサー専用試薬であり、順調に推移しています。

Q4. 中国とインドでの世界大手との競合状況はどうなっていますか？

A4. 中国では、遺伝子工学試薬では、タカラがトップシェアと考えています。欧米企業の進出や中国企業もでてきており、競争は激化しています。当社は 1993 年から中国に進出していることによる実績やブランド力、中国で試薬を製造しているコストパフォーマンスを活かして売上を拡大していく計画です。インドは、群雄割拠で、欧米企業や当社も同程度のシェアで競合している状況と考えております。12/03 期にはインドに子会社を設立し、売上拡大を目指します。

Q5. 米国 Troll Busters 社により米国にて提起された訴訟に関して、クロンテック社の事業に影響は出ているのでしょうか？

A5. クロンテック社は、ライセンサーを含め、提起された米国企業13社とともに対応しており、現時点では影響は軽微と考えています。

【中期経営計画（2011年4月27日発表）、12/03期の業績について】

Q6. 中期経営計画で、11/03期と12/03期の営業利益がほぼ同じなのはなぜですか。

A6. 12/03期の営業利益には震災の影響を一部見込んでいるためです。売上高については、震災の影響を数字に落とし込むことが難しいため予算に織り込んでいませんが、利益については、少し堅めに見ることで織り込んでいます。また、研究開発費を毎年約5億円ずつ増やしていく計画ですので、これも営業利益には影響します。

Q7. 医食品バイオ事業の中期経営計画3年目の営業利益は数千万円の計画ですが、これ以上の利益を見込むことは難しいのでしょうか。

A7. キノコの技術ライセンス・ノウハウ提供等の増加は計画にいておらず、また、健康食品事業におけるB2B市場への販売については、売上拡大の余地はあると考えており、さらなる利益向上を目指していきたいと考えています。

Q8. がん免疫細胞療法の支援サービス提供先が3機関に増え、中期経営計画3年目に売上が約5億円となっていますが、提携医療機関は、今後どのようなペースで増やしていく計画なのでしょうか。

Q8. 百万遍クリニック（京都市）、たけだ診療所（京都市）、藍野病院（茨木市）の3か所で中期経営計画3年目に約5億円の売上を計画しています。当社と一緒にデータを蓄積しながら治療をおこなっていただける医療機関があれば、新たに提携する可能性はありますが、中期経営計画には織り込んでいません。

Q9. 12/03期の予算では、原価率が上期の方が高く、下期が低くなっていますが、なぜですか。

Q9. 当社の売上高比率は、上期が低く、下期が高い傾向にあります。受託やキノコの原価は固定費の割合が高いため、売上高の小さい上期の原価率が、売上高の大きい下期より、原価率が上がることとなります。

【その他】

Q10. 配当はいつからする計画なのでしょうか。遺伝子医療事業が黒字化すれば配当するのでしょうか。

A10. 当社では、3事業を全て黒字化しないと配当しないとは決めていません。当社のビジネスモデルは、遺伝子工学研究事業及び医食品バイオ事業で収益をあげ、将来の飛躍のための遺伝子医療事業に研究開発費を投資していくというのですが、11/03期では医食品バイオ事業を黒字化できていない状況です。このビジネスモ

デルを実現させ、かつ安定して収益が得られるような状況になれば配当を開始したいと考えています。また、遺伝子医療事業の一定のメドを立てることも重要と考えています。